



M C : ○ そのような思いを込めた表紙だと知れば、感慨深いものを感じますね。そして、手に取ってみるとやはり重量感がありますね。

防衛補佐官 : ○ 今年もできるだけ情報量は減らさずに、スリム化・軽量化に配慮した結果、昨年同様にサイズを小さくし、更に文字の大きさについても見直しを行っていますが、やはりちょっと重いですか？

M C : ○ でも、全ページカラー版で写真と要図を交えて見やすくするために、上質な紙を使用すれば、しょうがないんじゃないですか。

防衛補佐官 : ○ そう言って頂けると有難いです。

○ 続いて、防衛白書刊行の目的ですが、できる限り多くの皆様に、できる限り平易な形で、我が国防衛の現状とその課題及びその取組について周知を図ることです。

M C : ○ 今回お話頂けることをきっかけにリスナーの皆さんに興味を持っていただけるといいですね。

防衛補佐官 : ○ そうなれるように頑張ってお話していきたいと思えます。

M C : ○ では、これからはどのようなこととお話しいただけますか？

防衛補佐官 : ○ はい。今回は、防衛白書の中でも本編以外の巻頭や巻末に書かれているところをまず話していきたいと思えます。そして本編の部分は、来月にお話させていただきます。

M C : ○ 防衛白書の巻頭や巻末に何が書かれているのかわかって言われても、よく思い出せない部分ですよ。それって重要なのですか？

防衛補佐官：○ それで、改めて見てみると面白いことに気づいたりするんですよ。  
○ そのような点を含めて紹介していきたいと思います。  
○ まず、最初に書かれているのは浜田防衛大臣による「刊行に寄せて」と題したコメントです。  
○ その中では、日本を取り巻く安全保障環境には外交努力を最優先としつつ、同時に抑止力を高めること。昨年12月に閣議決定された戦略3文書と防衛省の取組について述べられ、最後に防衛白書に関しての話になります。

M C：○ これを読んでも今年の防衛白書のエッセンスが理解できるような気がします。

防衛補佐官：○ その通りだと思います。この部分を読んで頂ければ今年の防衛白書の特色がわかります。  
○ 次に目次が書かれています。その次のページには、コラムの目次になっているんですが、このコラムというのは、白書の中に書かれている言葉の中で、特に重要で説明が必要な言葉を解説しているもので、注釈のようなものになります。また、コラムの目次と同じページには、先ほど話した表紙の話を詳しく説明していたり、防衛白書刊行の目的などについて書かれています。

M C：○ もちろん、目次を見ればその本の流れや内容を理解しやすくなりますが、それに加えて様々なことが書かれているんですね。

防衛補佐官：○ 防衛白書の本編を読む前に知っていただくことで、どのように本編を読み進めるのかについて参考になるものになっています。  
○ 特に次に紹介します特集のコーナーについては、今を読み解くのに重要な内容になっています。  
○ ここで、改めてなんですけど、昨年12月に日本の安全保障政策にかかる主要な文書が閣議決定されたのですが、その3文書は皆さん知ってらっしゃるでしょうか？

M C：○ 大きなニュースにもなりましたよね。

防衛補佐官：○ そうですね。今年の防衛白書では、この内容について詳しく書かれているのも特徴になります。この3文書について簡単に説明します。

M C：○ その前に、ここで1曲聞いていただきましょう。  
○ 今回は、陸上自衛隊の歌姫、鵜真衣さんの歌声を聞いていただきます。

~~~~1曲

M C：○ 引き続きお話頂きますが、3文書についてですね。

防衛補佐官：○ はい。まず最上位の政策文書となる「国家安全保障戦略」で概ね10年程度の期間を念頭に外交・防衛分野のみならず、新たに経済安全保障、技術、情報を含む幅広い分野の政策に戦略的な指針を与えるものになります。

○ 次に安保戦略を踏まえ、我が国防衛の目標やこれを達成するためのアプローチ・手段を示すものとして「国家防衛戦略」になりますが、これは以前の防衛計画の大綱、いわゆる防衛大綱に代わるものとしての位置付けになります。

○ 最後に防衛戦略に従い、防衛力の水準やそれに基づく概ね10年後の自衛隊の体制、5か年の経費総額や主要装備品の整備数量を示した中長期的な計画となる「防衛力整備計画」です。従来は防衛力の水準は防衛大綱で、5か年の経費総額や主要装備の整備数は中期防衛力整備計画で示したのですが、一貫性のあるものとして策定されました。

M C：○ つまり、新たな戦略3文書とは、「国家安全保障戦略」と「国家防衛戦略」それに「防衛力整備計画」ということですね。

防衛補佐官：○ そのとおりです。それでは特集の話に戻しますが、特集1では、「激変する時代」と題し、2013年今から10年前に初めて国家安全保障戦略を策定した時からの安全保障環境や防衛省・自衛隊の取組

など、約10年間の変化に焦点を当てた内容になっています。

- そして、特集2では、「国家防衛戦略」を取り上げ、防衛力の抜本的強化のポイントについて、焦点を当てた内容になっています。

M C : ○ つまり、なぜ今この3文書を策定する必要があるのかという疑問と防衛力を今後どのようにしていこうとしているのかをこの特集で説明しているってことですか？

防衛補佐官 : ○ ご名答です。国の防衛力は元来相手国があって保持するものです。日本も進化しているのと同様に周辺の国々も変化し続けています。特集1では、日本周辺国であるロシア・中国・北朝鮮の変化について具体的にわかりやすく説明しています。

- では、具体的に国別で紹介します。
- まず、中国については、この10年間で南シナ海の南沙諸島の7つの地形において大規模な埋め立てを行い、インフラを整備し力による一方的な現状変更を行っています。また、太平洋や日本海に軍用機を飛行させ、活動範囲を拡大し活発化させています。艦艇等においても尖閣諸島での活動を活発化し続けています。
- 具体的な数値による変化も紹介しています。
- まず、中国軍の領空侵犯に備えた日本の戦闘機による緊急発進の数ですが、10年前と比べてどのくらい変化していると思いますか？
- 付け加えますが、この比較は2003年に中国軍機の活動が開始されてからの10年後となる2012年までの累計数と2013年から10年間の累計数の比較になります。
- 坂口さんどうでしょうか？

M C : ○ 増えているのは确实だと思いますが……。大体3～4倍ぐらいではないでしょうか。最近では尖閣諸島における中国船の侵入や領空侵犯に関するニュースも見なくなっているのも、よくわかりませんね。

防衛補佐官 : ○ 確かにニュースに取り上げられるかどうかには左右されてしまいますよね。

- 正解は、約7.2倍にもなります。これだけ変化しているんです。
- 他にも国防費については、公表しているものだけでも10年前に比べると約2.2倍になります。

M C : ○ 国防費は約2.2倍ですか？意外と少ないように感じるのですが。

防衛補佐官 : ○ 中国の場合、軍事費の内訳は公表されていない部分が多く、また含めていないものも多くあるとみられているので、公表した数値より著しく多いとされています。それでも、2023年度の公表された国防予算は、なんと日本円で約31兆740億円です。

M C : ○ 日本と比べるとどうなんですか？

防衛補佐官 : ○ 日本の場合、2023年度の防衛関係費は約6兆6000億円ですの  
で中国の公表分だけでも約5倍近く中国が上回る数字になります。

M C : ○ それは凄い金額なんですね。

防衛補佐官 : ○ はい。次に北朝鮮のところでは、この10年間で弾道ミサイルの発射数は約8.4倍に、そして核実験は4回実施しています。そして、発射した状況から秘匿性や即時性が向上し、迎撃の難しい変則的な軌道を行える能力の向上がみられるとしています。

M C : ○ 最近でも頻繁にミサイルを発射している印象がありますので、そのぐらいの回数になるんですね。大変怖い状況です。

防衛補佐官 : ○ それぐらい周辺国は変わってきているんです。

○ 次に、我が国がこの10年間でどのように変化しているかについて、年表形式で説明しています。紹介している項目は、防衛関連費の推移と国家防衛戦略で重視する能力の推移についてです。

M C : ○ 国家防衛戦略で重視している能力とは何ですか？

防衛補佐官：○ はい。これは7つあります。一つ目がスタンドオフ防衛能力、2つ目が統合防空ミサイル防衛能力、3つ目が無人アセット防衛能力、4つ目が領域横断作戦能力、5つ目が指揮統制・情報関連機能、6つ目が機動展開能力・国民保護、そして最後の7つ目が持続性・強靱性になります。

○ それぞれの能力などについては、来月の本編を説明するところで紹介します。

M C：○ わかりました。でも、このページを見るとそれぞれの能力を強化する取り組みはすでに行われているのもあるんですね。

防衛補佐官：○ そのとおりです。2018年に策定した30防衛大綱と31中期防によって、真に実効的な防衛力を構築するとして、防衛力を強化してきました。

M C：○ この表を見てその説明を聞くと、10年前から計画的に防衛力を整備しているのがよくわかります。昨年12月の3文書が突如発表されて、急いで防衛力整備を始めたような印象もあったんですが、そうではないことがよくわかりました。

防衛補佐官：○ 先ほども話しましたが、テレビやラジオなどでトピックとなるニュースを聞いただけでは、なかなか理解が深まらないものだと思います。今回の放送を聞いていただいて、できればこの防衛白書を見て頂きたいと思います。

M C：○大変参考になります。次にどのようなことが書かれていますか？

防衛補佐官：○ はい。この10年間の諸外国との協力とその強化について書かれています。日米関係においては、2015年に「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）が改訂され、平時から緊急事態までのあらゆる段階における抑止力及び対処力を強化することで、より力強い同盟関係を

構築しました。また、自衛隊と米軍との共同訓練は、10年前は24回だったのが2022年には108回と相互運用性と対処能力の向上を図られているとしています。

○ また諸外国との協力・交流などの実績についても書かれています。

M C : ○ 以前から外国との防衛交流は、行われていたと思いますが、近年かなり増えてきているんですね。

防衛補佐官 : ○ そうです。やはりわが国周辺国の安全保障環境の変化の影響が大きな要因になります。

○ 続いて、特集2では「国家防衛戦略」について書かれています。もちろん本編では詳しく書かれています。この特集では要図を含めてコンパクトにまとめて表現されています。

○ ちょっとおさらいしますと、特集1で周辺国の安全保障上の10年間の変化と我が国の10年間の防衛政策が書かれています。そして、特集2では、特集1の内容を基に今後のわが国の防衛目標やそのアプローチ・手段などについて書いている流れになります。

M C : ○ そのような流れがあるんですね。そう説明してもらおうとつながりがあってわかりやすいと思います。

防衛補佐官 : ○ ここで書かれている内容は当然重要な事ではあるんですが、簡単に短い時間で説明するのは難しいので、来月の放送で、特にニュースなどでもトピックになっている内容に絞って話したいと思います。

M C : ○ では、この国家防衛戦略の話は、次回宜しくお願いします。

○ 白書では次に何が書かれているんですか？

防衛補佐官 : ○ はい。次に書かれているのはダイジェスト版で本編の第I部から第IV部までの内容をそれぞれ要約してまとめたものが書かれています。ですので、本編を一から読むよりは、このダイジェスト版を見てどのようなことが書かれているのか理解した上で、本編を読んで行った方が効果的で効率的に読めると思います。

M C : ○ ダイジェスト版の次は何が書かれていますか？

防衛補佐官 : ○ はい。「活躍する自衛隊員」と題して世界編と国内編に分けて、現職の自衛隊員の活動内容が書かれています。

○ 例えば、世界編ではロシアにおける大使館で駐在武官として勤務している隊員の活動内容や写真を掲載し、本人のコメントが書かれています。他にもアメリカ、カナダ、オーストラリアやウクライナで活躍している隊員たちを紹介しています。

○ 国内編では様々な職域で活躍している隊員を紹介しています。

M C : ○ 世界でも国内でも、あまり知られていない場所で自衛隊員が活躍しているんですね。これは、読み入っちゃいますね。

防衛補佐官 : ○ 自衛隊員でもあまり知らない内容で私も読み行っちゃいました。

○ ここまでが、本編の前に巻頭で書かれている内容になります。

M C : ○ 最初に防衛補佐官がおっしゃったようにこの巻頭の部分では、本編を読み進める上で参考になる内容もありました。

防衛補佐官 : ○ ぜひ活用してみてください。

M C : ○ 次は、巻末部分の紹介ですか？

防衛補佐官 : ○ はい。巻末の資料には、自衛隊に関する様々な資料を掲載しています。

○ まず、最初は陸海空自衛隊の職種・職域を紹介しています。自衛官は、入隊して最初の教育を終えた頃にこの職種・職域を選択します。陸上自衛官であれば、普通科、機甲科、野戦特科、高射特科、情報科、航空科、施設科、通信科、武器科、需品科、輸送科、化学科、警務科、会計科、衛生科、音楽科の16の職種。

- 海上自衛隊だと射撃、通信、水雷、気象・海洋、航海・船務、給養、飛行、機関、航空機整備、経理・補給、航空管制、施設、情報、地上救難、衛生、音楽、機雷掃海・潜水の17の職域
- 航空自衛隊だと操縦、航空管制、警戒管制、高射、電算機処理、気象、通信、武器弾薬、航空機整備、施設、衛生、補給、警備、音楽、輸送、会計、宇宙の17の職域

M C : ○ たくさんあるんですね。

- 防衛補佐官 : ○ そうですね。自分の能力や性格にあった職種や職域を選択することができます。
- 次に、自衛隊の階級と入隊以降の進路について紹介しています。
  - その次に各自衛隊の主要な装備品を写真付きで紹介しています。見たことのあるものや初めて見るものもあると思います。

M C : ○ そうですね。見たことのないものの方が多いかもしれません。

- 防衛補佐官 : ○ 特に海上・航空自衛隊の装備品は、基地の近くではない限り、見る機会はないかもしれませんね。
- 次に書かれているのは、自衛官の進路について詳しく書かれています。高校生として入学し卒業後に入隊する高等工科学校、大学生等として入学し卒業後入隊する防衛大学校や防衛医科大学校
  - また、18歳以上で入隊できる自衛官候補生や一般曹候補生そして航空学生。大学卒業後に幹部候補生として入隊する一般幹部候補生など他にも紹介されています。

M C : ○ 様々なコースから自衛官になることができるんですね。この表には、入隊後の階級が上がる昇任についても書かれていますね。

- 防衛補佐官 : ○ そうですね。入隊後のイメージも湧きやすいかもしれません。
- このページには書かれていませんが、自衛隊員の中には自衛官と防衛事務官そして防衛技官の人もいますので、興味のある方はこのページに記載のQRコードで検索してみてください。

○ 次に書かれているのは、陸海空自衛隊の主要な部隊が所在する地図が掲載されています。

M C : ○ 和歌山県では陸上自衛隊の和歌山駐屯地、海上自衛隊の由良基地そして航空自衛隊の串本分屯基地があります。

防衛補佐官 : ○ そうですね。でもこの地図にはすべての駐屯地・基地や分屯基地などは載ってません。それぞれの自衛隊の主要なものに限定していますね。

○ 続いて、自衛隊の主な広報施設の案内が載っています。

M C : ○ これ全部無料なんですか？

防衛補佐官 : ○ 市ヶ谷台ツアーの一部を除き無料のようですね。ぜひ見学してみてください。

○ 次に先ほど自衛官としての進路がありましたが、その採用案内が書かれています。

○そして最後に、防衛省・自衛隊の公式コンテンツの案内が載っています。

M C : ○ 防衛白書といっても本編以外のところでいろいろな情報も掲載されているので、新たな発見ができるかもしれませんね。

防衛補佐官 : ○ そして、本編を読み進める上で参考になる情報もあるので、ぜひとも確認してみてください。

○ そして、最後に防衛省のホームページで防衛白書に関して様々な情報を発信していますので、ここで紹介します。

M C : ○ お願いします。

防衛補佐官 : ○ ホームページでは、防衛白書はもちろんですが、内容を要約した簡略

版やパンフレット。そして防衛白書の内容をもとに、主に、小学校高学年や中学生、高校生の皆さんにわかりやすく解説している「まるわかり！日本の防衛～はじめての防衛白書～」も無料でダウンロードすることができます。

- この「まるわかり！日本の防衛」には、防衛白書には含まれていないような「国の防衛はなぜ必要なの？」とか「防衛省・自衛隊は何をしているの？」といった素朴な疑問にも答えるような形で書かれていますので、興味のある方は一度見てみてください。

M C : ○ 大人の方でもあまり、防衛白書や安全保障の内容がよくわからないといった人にも、参考になりそうな内容ですね。

防衛補佐官 : ○ いきなり防衛白書はハードルが高いと感じる人には、ぜひ見てもらいたいですね。

- これで、本日紹介する防衛白書の内容は終わりますが、ご清聴ありがとうございました。

M C : ○ 今回は、防衛白書でもあまり見られずにさらっと流されてしまうところを紹介してもらい、意外と意味のあるものなんだと感ずることができました。これも防衛白書の魅力なのかもしれません。

- そして次回は、いよいよ防衛白書の本編についてお話頂けますか？

防衛補佐官 : ○ はい。当然堅苦しい内容もありますので、できるだけニュースでも話題になっている内容を取り上げながら、紹介していきたいと思ひます。

M C : ○ 次回も楽しみですね。本日は 防衛補佐官、ありがとうございました。

防衛補佐官 : ○ こちらこそ、どうもありがとうございました。

M C : ○ それでは、本日2曲目となります陸上自衛隊の歌姫、鶴真衣さんの歌声を聞きながらお別れしたいと思います。 今

回も最後までお付き合い下さいましてありがとうございました。次回も令和5年度版防衛白書についてのお話を放送する予定です。お楽しみに、それではさようなら。

~~~~ 2 曲目